



①線路づくり：思いが小さく動き出した瞬間

進級して間もない頃。
新しい部屋、新しい友達、新しい環境の中で、
「何しようかな...」と立ち止まってしまう子や、
話したいのにうまく言葉が出てこず、
そっと保育者の近くにいる子がいました。

そんな中で、ある子の「電車を走らせたてい！」という一言をきっかけに、
子ども達の“やりたいこと”が目に見えて動き出しました。

電車を走らせるための線路づくりが始まると、子どもたちがやってみたく
ことを見つけやすいように、ホワイトボードに視覚化した“作りたいものリス
ト”を作りました。そこに自分の名札を貼ることで「私はこれをやってみたく
い」を各自が表せるようにしました。自分がやりたいことを名札を貼るだけ
で意思表示ができる安心感もあってか、子どもたちは自分がやりたいこと
を見つけ、選択し、遊ぶようになりました。



「ここ川内駅つくる？」
「次ここつなげよう！」
そんな声をきっかけに、材料を手渡したり、
指で場所を示したり、それぞれが“できる
形”で気持ちを動かしていました。

活動の終わりには「ペンギんかいぎ」の中で
作ったものを紹介しあい、
「ここトンネルになってる！」
「こうしたら壊れにくかったよ」
と友達の工夫に気づく声や自然と出てきて、
考えが行き来する時間が少しずつ増えていき
ました。

全体で話す子もいれば、
グループなら安心して言える子、
表情や手元だけで語る子、
名札を貼って示す子、
それぞれではありますが、子どもたち同士の
思いや考えを表現し、受け入れる機会が遊び
をもっと面白いものに発展させようという雰
囲気に繋がったように感じます。



②問いかけが想像をひらく — 「4つの街」づくりへ

夏休み明け。
電車を走らせたていという声は街づくりに繋
がり、その後の子どもたちの声から「4つ
の街」作りに広がっていきました。
家、遊園地、プール、お店.....
「こんなのがあっていいな」という夢やフ
ァンタジーと現実とが自然に混ざり合った
世界が形作られていきます。

ペンギん会議では、それぞれが作った街を
紹介してもらった時間を設けました。説明を
聞いた後には、
「入口どこ？」
「ここどうやって遊ぶの？」
「ここって何の場所？」
と、友達からの問いかけが。

「—まだ決めてなかった！」
「—じゃあ作る？」
とあらためて自分たちの街を振り返って見
てみたり、
「—それいいね」
「—じゃあこうしよう！」
とお友達の提案を自分たちの世界に取り入
れようと早速作り始めたりしていました。

ケーキの街では、「建物も全部食べられるん
だよ」の一言から、「ジェットコースターも
食べられるって言うのはどう？」などと会
話がどんどん広がり、想像の世界を自由に
飛び回りながら面白さを共有する姿が見
られました。

普段は自分の思いを言い出しにくい子も、
好きな世界の話になるとふっと表情が変わ
り、気づけば自分の言葉で説明している、
そんな姿も見られました。

夏休み明けには、つばめ組が作った“水族館”に招待してもらった経験から、
「自分たちの街も見てもらいたい」「招待したい」という思いが膨らんでいっ
たようです。



③“どう伝える？”を考える時間（発表会へ）



10月になると、ちょうど発表会が近づいて
いたこともあり「街を見てもらいたい」と
いう思いが子どもたちの中でよりはっきり
してきました。

ペンギん会議では「見るだけだとつまらな
いよね」「遊べる場所があったほうがいい
よ」という声も出て、街の紹介を“体験でき
る形”にしたいという思いに変わっていった
ようです。

一方で、発表会は“見ってもらう時間”が中心
になることもあり、子どもたちはその中で
「どう伝えるか」を考える必要が出てきま
した。

そこから「言うこと忘れてらどうする？」
「メモがあったらいいよ」と伝え方そのも
のを自分たちで工夫しようとする姿があり
ました。注目されることや人前が苦手な子
もいながらも、“どう伝えたら相手にわかる
か”を考える時間そのものを楽しんでいるよ
うにも見えました。



思いを伝える力がまちづくりから日常へ広がっていく

街作りに取り組む経験を通して、もちろん
みんなで協力して1つのものを作り上げられた
喜びも大きかったと思いますが、「完成した
もの」以上に、その過程で経験した「友達
同士のさまざまな関わり」にこそ価値があっ
たと感じています。

鬼ごっこのルールで意見が分かれた時に
「話しに行こう」と声をかける姿。困って
いる友達に、そっと材料を差し出す姿。会
議で少し勇気を出して思いを言葉にしてみる姿。

街作りの中で育ってきた“伝え合う力”は、もの作りの場面だけでなく、
日々の遊びや生活の中にもしっかりと活かされているように感じます。
そんな成長の過程を感じながら発表会を見て頂けるとありがたいです。





🍣 すべり台から寿司が流れる建物

「ここから寿司ながしたらおもしろい!」
→ ラキューというパズルブロックでお寿司作りをしていた遊びが回転寿司のイメージと結びついたのか、「寿司がすべってくるビル」という設定に。経験や想像を歩き来しながら全体の世界観を広げていきました。



🌵 砂漠・サボテン・トカゲ

「あつい街だから、砂漠だよ!」
→ “暑さ”を表す素材として自然に選ばれたのが砂漠。「砂漠に住んでる人はどんな家に住んでるんだろう?」という疑問から砂漠の家を画像で見て、想像を広げながら作っていました。

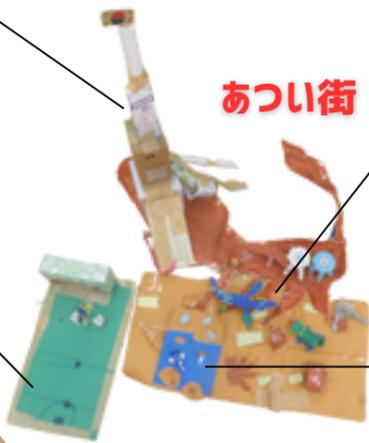
🦖 恐竜の見張り

「恐竜がまちを守ってるんだよ!」
→ ラキューで作った恐竜の遊びが、“あつい街の守り神”へと発展。敵が来ないように見張っていて、街の安全を守っているという設定が生まれました。

🌊 化石が見つかる海

「ここ、めくったら化石がある!」
→ 画用紙を丸切り、裏に化石を描いて貼り付けた“発掘あそび”。恐竜遊びから自然に派生し“恐竜の世界=化石のある海”というストーリーが広がった。子どもたちの手で、発掘の楽しさを再現した仕掛けに。

あつい街



恐竜の見張り、化石の海、寿司が流れるビル、サッカーゲーム。子どもたちそれぞれの好きな遊びから生まれたアイデアが重なりあって、“あつい街ってこういうところだよ”という共通の世界がつくられていきました。

⚽ サッカーゲームづくり

「あつい街の人はサッカーがうまいんだよ!」
→ 身近な素材で芝生・ゴール・ネットを作り、ディフェンスは「動かしてゴールを邪魔する!」という子のアイデアから誕生。角度や位置を調整する姿がよく見られました。



🎨 「飾りたい!」の声から始まった街

「かざりたい!」「きらきらにしたい!」
→ 夏休み明けのビーズ遊びの中で、作ったものを“飾りたい”という声が上がりました。「作ったものを街の中に飾ったら?」という会話をきっかけに、ビーズの街づくりがスタート。

🛍 アクセサリーのお店

「ここにのせたらかわいい!」
→ レースペーパーに絵を描き、アクセサリーを置く“かわいい台”を手作り。置き方を試しながら、飾る場所づくりを楽しんでいました。

💖 真ん中タウンとハートの鍵

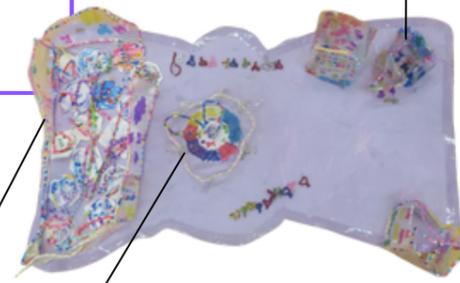
「真ん中タウンはハートがある!」「この鍵であけよう」
→ 街の中心には大きなハートのオブジェがある“真ん中タウン”。家はハートの鍵で開くという物語が自然に生まれ、ビーズの街ならではの世界観の深まりが見られました。

🏠 ビーズ×針金でつくる“かわいい家”

「家もキラキラにしたい!」
針金にビーズを通して家の形を作り、色や組み合わせにこだわって制作。「こっちの色かわいい」など相談しながら街の世界観を揃えていました。



ビーズの街



👩‍🎨 細かな作業を助け合う姿

「ちょっと手伝って!」
→ ビーズを通す・針金を曲げる・レースを敷くなど、細かな工程が多く、一人では大変な場面も。困ったときには他の街の子に自分たちから声をかけ、自然に手を貸しに来る姿が。支え合いながら街をつくる経験が育っていました。

「飾りたい」という気持ちを出発点に、ビーズを通した針金やレースペーパーを使った細かな制作にじっくり取り組みながら、世界観を丁寧に形にしていっていったビーズの街。こだわりを大切にしながら友達と相談し合い、自分たちの“かわいいまち”を時間をかけて作り上げていました。

🌍 イメージを共有しながら土台づくり

「ここはプールで、こっちは石のそこ!」
→ 海・プール・温泉...子どもたちの中でいろんなイメージが入り混じりその会話の中から“石の場所”“水の場所”などの設定が自然に生まれていきました。土台を塗る時点から、自分たちなりの分けが見られました。

🏠 世界の家 ▶ “水上の家”づくりへ

「この家、水の上にあるって!つくろうよ!」
→ 絵本『こんな家にすんでたら』を見たことをきっかけに“水の上にも家があるんだ!”と興味が広がり、プールの上に家を置く表現へとつながっていきました。



🛝 スライダーづくり

「“つよき”と“よわき”!」
→ スライダーが倒れないよう支えを増やしたり、“つよき”と“よわき”という強弱ボタンを考えたり、仕組みそのものを自分たちで作ろうとする姿がありました。

プールと温泉の街



🗺 旅行の記憶が街のイメージに

「石の温泉に行ったことある!」
→ 自分たちが旅行で見たり体験したりした温泉・ホテルの話しながら、思い出を形にするように作る姿がありました。身近な経験が、そのまま街のイメージの支えになっていました。

🏠 倒れやすい屋根に気づいて

「壊れちゃう...どうする?」
→ 温泉の屋根を割り箸やアイスノンの棒で本物の様子にしようとしたが、重くて倒れやすくなってしまい、いったん外して作り直すことに。話し合いの中で「じゃあ看板を作ろう」と新しい案が生まれ、温泉マークの看板をつけて、見やすく分かりやすい表現へと変化させていきました。

海・プール・温泉...子どもたちの中のいろんなイメージが混ざり合いながら、旅行の記憶や絵本の世界を形にしていっていったプールと温泉の街。壊れる・作り直すを繰り返しながら、自分たちだけの“夢の街”が育っていきました。

🌍 世界観を広げる会話

「ここ、全部食べられるんだよ。しかもただで!」
→ この一言から、“家も遊園地も全部食べられる街”という設定が広がっていきました。「勝手に食べていいの?」「ジェットコースターも食べられる?」とやりとりを重ねる中で、子どもたちは街のルールや暮らし方を、会話の中で少しずつ形にしていきました。

👥 作る順番や役割を話し合う

「今日はここをつくろう」「次はこれを作ろう」
→ 作る順番や役割を話し合ってから取りかかる姿がありました。色の組み合わせや飾りの場所も友達と相談しながら決めていき、「楽しいケーキの街にしたい」という共通の思いをもって丁寧に作り進めていました。

🎡 メリーゴーランド

「ケーキっぽくしたい!」
→ メリーゴーランドは土台や屋根をピンク・赤・白で色付けしようとして最初に計画してから制作を開始。最終的には“全部ピンク”で統一し、色の選び方やまとまりを自分たちなりに工夫していました。

ケーキの街



🚗 観覧車

「まるくしたい!」「どうやって立つ?」
→ 段ボールで輪を作り、透明の卵パックをゴンドラにして貼りつけて形を表現。赤のペンで色をつけ、“ケーキの街らしいかわいさ”にこだわる姿も。牛乳パックを支柱にし、倒れないよう角度やテープの貼り方を何度も調整していました。



🍰 ウェディングケーキのマンション

「ここに大きいケーキつくりたい!」
→ 街の中心に置く“ケーキマンション”を作ることに。紙粘土でくだものを作って飾ったり、「ドアつけたら入れるよ!」と相談し合いながら、住めるケーキの建物ができあがっていきました。



“かわいい&楽しい世界をつくりたい”という思いを中心に、会話・話し合い・計画を通して世界が広がっていったケーキの街。構想力・協同性・試しながら作る粘り強さが育ち、ケーキの街全体の世界観を自分たちの手で作り上げていきました。